



滝川のいぼとり不動

滝川の永明寺裏の氏神様の所に、こんこんと湧き出る水を頭からかぶって立っている不動様があります。これは、いぼとり不動と呼ばれ、この水をかけておまいりをするといぼがとれると言われています。

不動様に願かけ

昔、滝川附近に、いぼの沢山できている娘がいました。娘は、何とかして自分のからだのいぼをとりたい一心から、三・七・二十一の願をかけ毎日おまいりをしていました。

丁度二十一日目の朝夢枕に不動様が立ち「この水をかけろ」といつたので、早くあきて不動様の所へ行つて水をかけました。

するとどうでしょう。みるみるうちにいぼが取れて、たいそうきれいな娘となりました。村人達は、この不思議な不動様をいぼとり不動と名付けて信仰をしています。

このいぼとり不動の近くに住む山本さかゑさんは、今から30数年前、腕にいぼができる困っていたところ



山本さかゑさん(60歳)とお孫さんの大夢くん(1歳)

家のあじいさんから、「だまされたと思っていぼとり不動様におまいりをしてみろ」と言われ、当時良い薬もなかつたので半信半疑でおまいりにいったそうです。

すると、おまいりし始めて20日程たつた頃、腕がかゆくなり、かくとボロボロといぼがとれ、今ではあとも残っていないとのことです。



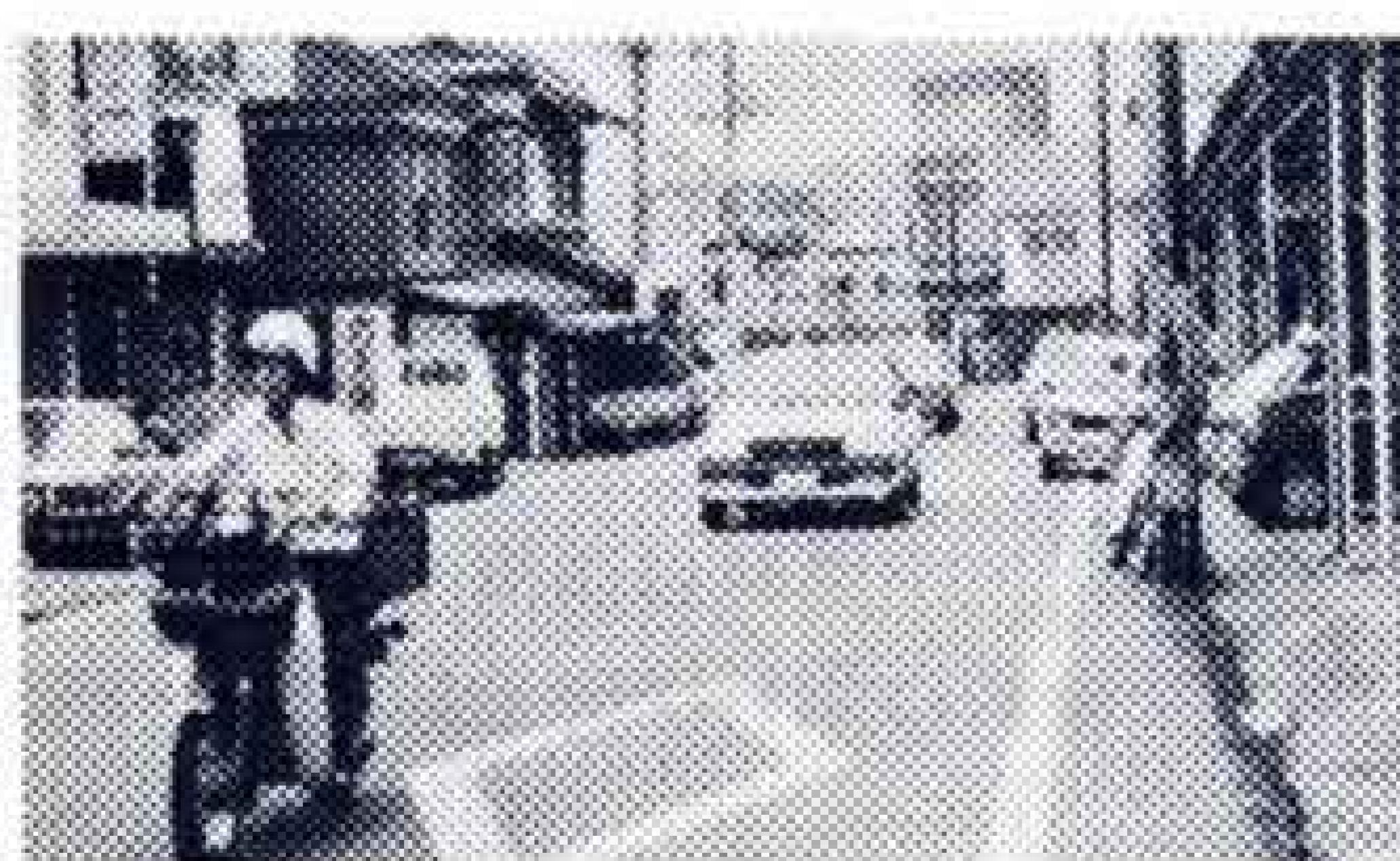
いぼとり不動

鷹岡村は明治22年3月1日、江戸時代から成立していた厚原村・久沢村・入山瀬村・天間村の四ヶ村が合併して、誕生した村です。

鷹岡という村名にした理由は必ずしも明らかではありませんが、鎌倉時代にはすでにこの附近を鷹ヶ丘と呼んでいましたので、その鷹ヶ丘を鷹岡と書きかえて村の名にしたのかもしれません。

地名の由来

鷹岡



郷土の遺跡



東平遺跡出土土器

須恵器・土師器



東名富士インターの南に広がる東平遺跡からは、奈良時代(1,200年程前)を中心とする須恵器や土師器と呼ばれる土器が出土しました。須恵器はロクロや窯を使って作る灰色をした硬質の土器で、5世紀頃(1,500年程前)に大陸から伝わり、専門の工人によって作られていました。

県内では中・西部地域で生産され、東部地域にも運ばれていました。土師器は弥生式土器の伝統を継ぐ土器で、粘土紐を巻きあげたり、輪積みで作り、野火で焼きあげた土器で主に赤褐色をしています。また須恵器のような技術を必要としないため各地の村人の間で生活に適した土器が作られていました。このため製作地の違いが粘土や作り方、形などに表われています。

東平遺跡から出土した土器にもこの違いがみられ、県東部から出土する在地の土器の他、中部・西部、山梨県などから出土する土器がみられます。このことは、これらの地域から人々の移住があったと考えられます。